

2) 手術の直接監督者の資格認定について（案）

・ 背景

本来、レジデントの手術研修直接監督者は専門医に限るべきですが、本研修制度は発足後間もないために、十分な研修体制が確立しているとは言い難い状況にあります。また、レジデントの経年の人数が減少している事（平成21年度9名、平成22年度6名、平成23年度2名）、ここ数年で設立専門医のリタイア候補がかなりの人数いること、最も手術を精力的に実施されている40歳前後の先生が諸事情により設立専門医の資格を取得できていないこと、さらに大学などにおいては手術の担当が細分化されているために専門医の受験困難/受験の意思なしと思われる事、などから本研修制度の活動が停滞する可能性があります。したがって、専門医以外にも、以下の資格を満たす場合にはある特定の分野の手術に関しては直接監督ができるようにしたいと考えています。そうすることにより、レジデントの研修体制を充実させ、レジデントを受け入れやすくできると思います。なお、専門医の質低下を防止することは最も大切ですが、試験のレベルを落とさない努力をする事で、専門医の質保証ができると考えています。

・ 申請資格（別枠受験資格に準ずる）

- (1) 研修認定施設に常勤していること。
- (2) 直接監督する手術分野については、専門医と同等以上の実績があること。
- (3) 8年以上にわたって獣医外科臨床に携わっている者。
- (4) 獣医麻酔外科学会の会員歴が3年以上であること。
- (5) 最近3年間で300例以上の手術執刀実績がある事。
- (6) 審査のある獣医系学術誌に筆頭論文が3報以上あること。
- (7) 獣医臨床系学会で、6回以上の一般演題で筆頭発表していること。

・ 申請書類

- (1) 手術直接監督者申請書（書式 ）
- (2) 履歴書：獣医外科臨床の経歴を証明するもの（書式自由）
- (3) 手術の内容および件数が確認可能な一覧表（書式 ）
- (4) 審査のある学会誌論文一覧表（書式自由：著者氏名、論文名、学会誌名、巻号、頁、発刊年を記載）
- (5) 学会口頭発表一覧表（書式自由：発表者氏名、演題名、発表学会名、発表年月、学会開催都市名を記載）

- ・ 直接監督可能な手術分野は、申請書類および症例数などを参考に資格審査委員会が認定する。

書式

手術直接監督者申請書

平成____年____月____日

日本小動物外科専門医協会 資格審査委員会 御中

わたくしは日本小動物外科レジデント研修に際して、関係書類を添えて下記の通り申請しますので、手術直接監督者資格の認定をお願いいたします。

申請者氏名 _____ 印
常勤研修認定施設名 _____
TEL _____、FAX _____
E-mail _____

- ▶獣医外科臨床経験年数：_____年
- ▶獣医麻酔外科学会会員歴：_____年
- ▶最近3年間の手術執刀数：_____例
- ▶直接監督希望手術分野（括弧内に○をつける）

軟部組織外科

消化器 ()
泌尿器 ()
腹腔 ()
頭頸部 ()
胸部 ()
皮膚・形成 ()

整形・神経外科

骨接合 ()
関節 ()
神経 ()

その他

【分野名 _____】()

- ▶学会誌筆頭論文数：_____編
- ▶学会筆頭発表数：_____編

上記の者を手術直接監督者として承諾する。

基幹施設名 _____
基幹施設長氏名 _____ 印

関連施設名 _____
関連施設長氏名 _____ 印

書式

手術直接監督者申請：手術の内容および件数の一覧表

平成____年____月____日

日本小動物外科専門医協会 資格審査委員会 御中

手術直接監督者申請に際して、最近3年間の手術執刀例数は以下の通りです。

軟部組織外科	例
消化器	例
泌尿器	例
腹腔#	例
頭頸部	例
胸部	例
皮膚・形成	例
整形・神経外科	例
骨接合	例
関節	例
神経	例
その他	例
総計	例

なお、上記の各手術分野の一覧表は別紙にリストを添付してください（書式自由）。

申請者氏名 _____ 印
研修認定施設名 _____
TEL _____、FAX _____
E-mail _____

3) 専門医の更新制度（案）

- ・ スケジュール

既に専門医であるものについては、専門医更新制度の公表・周知した翌年度から5年間の活動実績について審査をします。新たに専門医となったものについては、専門医となってから5年間の実績を審査します。

- ・ 更新資格の申請条件

- 1) 専門医として認定された後、引き続き小動物外科診療に従事していること
- 2) 既に専門医であるものについては平成24年度から5年間の活動実績について、また新たに専門医となったものについてはその都度専門医となってから5年間の実績を審査する。実績として所定の単位数を取得していること
- 3) 当該年度までの会費を納めていること（要検討：年会費一万円）

2)の活動実績として、学会・セミナー出席、学会発表、論文・著書、教育実績、専門医試験問題作成、その他により評価します。

- ・ 更新申請書類

学会・セミナー出席一覧表

学会発表一覧表

論文・著書一覧表

教育実績一覧表

試験問題作成数

その他の実績内容証明書

- ・ 評価方法

各項目の単位数を合計して、更新を申請する年の3月末日までの5年間に、各項目合わせて100単位以上の取得が必要です。

- a. 学会・セミナー出席

獣医麻酔外科学会、JCVSレジデント発表会、ACVS、ECVSを対象とし、出席1回10単位とし、5年間で30単位を必須とし、50単位を限度とします。6回以上出席しても、単位数は50単位が上限です。

- b. 学会発表

本項目で取得できる単位数は、上限および下限の設定はしません。発表の内容は小動物外科学に関するテーマで、以下の単位が認められます。

獣医麻酔外科学会、ACVS、ECVS：筆頭演者 20単位、共同演者 10単位

JCVSレジデント発表会：共同演者 10単位

その他の学会：筆頭演者 10単位、共同演者 5単位

c. 論文・著書

本項目で取得できる単位数は、上限および下限の設定はしません。論文は、英文か和文か、査読の有無、筆頭著者と共同著者により単位を設定します。収載雑誌の名称や論文の種類（原著、症例報告、総説等）は問いませんが、内容は小動物外科学に関するテーマに限ります。

英文	査読有り	筆頭著者	30 単位、	共同著者	15 単位
	査読なし	筆頭著者	10 単位、	共同著者	5 単位
和文	査読有り	筆頭著者	20 単位、	共同著者	10 単位
	査読なし	筆頭著者	10 単位、	共同著者	5 単位

著書に関しては、以下の通りで、小動物外科学に関する内容に限ります。

英文	単著	20 単位、	共著	10 単位
和文	単著	10 単位、	共著	5 単位

d. 教育実績

本項目で取得できる単位数の上限は 20 単位とします。内容は小動物外科学に関する教育に限ります。

学会教育セミナー等	10 単位/回
教育機関での講義	10 単位/回

e. 専門医試験問題作成

試験問題 1 題（学術、実地の部門は問わない）2 単位とし、本項目で取得できる単位数の上限は 1 年間 20 単位、5 年間で合計 50 単位を限度とします。

f その他

協会の役員等として運営面での貢献が著しい者については、上限 10 単位まで認められます。

以上